

重点事業調書

担当部局・課名		保健福祉部障害福祉課			
重点事業の名称		強度行動障害のある人に対する支援			
第3次 生き生き プラン	重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造			
	戦略の方向	1 保健・医療・福祉充実プログラム			
	施策	6 強度障害のある人の自立と社会参加の促進			
第2期 創生 戦略	基本目標	4 地域の活力を維持する			
	対策	4 地域の持続的発展のための活力の維持			
	政策パッケージ	4-② 地域社会の活性化			
終期設定(年度)	R7	予算区分	一般	事項名	障害者総合支援推進費、地域生活支援事業費
現状・課題・必要性	【現状】 - 強度行動障害とは、混乱や不安を感じていても言葉ではうまく表現できず、自傷や他害行為等が通常考えられない頻度と形式で出現している状態として定義されており、該当者は事業所での受入れ困難や、受入れ後の不適切な支援により虐待につながる恐れが懸念されている。(県内の強度行動障害のある人：388人 R1) - 一方で、支援によって他害などの危険を伴う行動の回数が減少するなどの支援の有効性も報告されており、施設における適切な支援が可能な体制整備が重要である。 【課題・必要性】 - 県内の福祉施設等への調査や関係団体からの意見等から、強度行動障害のある人に関わる支援者が多くの困難や負担を感じながら支援にあたっている実態が明らかとなっており、支援者からは効果的な支援ノウハウの提供や支援技術のスキルアップを望む声が寄せられている。 - こうした課題を解決し、支援者の負担軽減等を図ることが、強度行動障害のある人の支援の充実につながると考えられる。				
	1 強度行動障害への支援体制整備事業 《8,628千円》 (1) 新規強度行動障害への理解促進事業 《300千円》 - 強度行動障害のある人の理解促進を図るため、県民や関係者を対象としたシンポジウム等を開催 (2) 強度行動障害に関わる支援者等への支援事業 《8,328千円》 - 受入れ事業所等の支援力向上を図るため、強度行動障害支援者養成研修修了者に対するフォローアップ研修等を行うとともに、スーパーバイザーの施設、病院、在宅、学校等への派遣コンサルテーション等を実施 ① 強度行動障害支援者養成研修 《1,028千円》 - 強度行動障害のある人に対する適切な支援を行う者を養成する法定研修を実施 ② 新規支援者等の資質向上研修 《800千円》 - 強度行動障害支援者養成研修（法定研修）修了後の施設職員等を対象に、事例検討等により現場での対応力を高めるための研修を実施 - 事業所としての支援方針や環境整備等に関与する役職者を対象に、体制整備や環境整備に係る研修を実施 ③ 新規スーパーバイザーの派遣コンサルテーション 《6,500千円》 - 対応や支援方法について困っている保護者や事業所等からの相談助言を行う窓口を設置 - 施設や病院、学校、保護者等からの依頼に応じて、各分野の専門家（スーパーバイザー）を派遣し、ケース検討、対象像への対応、環境整備等に関する具体的助言などを実施 2 強度行動障害実態調査 《1,204千円》(R5 R7 実施) 令和4年度実施の実態調査によって浮かび上がった課題について、より具体的な調査・ヒアリングを実施				

事業の意図、効果等	【意図】 ・強度行動障害のある人の地域での自立に向けた理解促進 ・実際に強度行動障害の状態像を呈している人に対応できる人材の育成・体制づくり 【効果】 ・強度行動障害のある人の特性理解とより適切な支援 ・強度行動障害のある人の受入可能事業所の増加とスーパーバイズの実施による県全体での支援の底上げ						
事業目標	事業		生き活き指標、重要業績評価指標(KPI) 等		現状値	目標値	差
	1(2)		スーパーバイザーの派遣コンサルテーション件数		0	50	50
事業費の見積もり	区 分		R4 予算額	R5 予算額	R6 見込額	R7 見込額	R8 以降見込額
	事業費(単位：千円)		1,328	9,832	8,628	9,832	
	財源内訳	国 庫	514	4,916	4,314	4,916	
		起 債	0	0	0	0	
		その他特定財源	514	514	514	514	
		一 般 財 源	300	4,402	3,800	4,402	

令和5年度 岡山県主催

入場無料

強度行動障害のある人への支援 をみんなで考えるシンポジウム in岡山

講義 1 10:10～11:50

テーマ「強度行動障害の背景と
支援方法の基本」

講師 川西 大吾

株式会社トモニー・きずな
就労継続支援A型事業所 トモニー・きずな旭川 管理者



講義 2 12:50～14:30

テーマ「行動障害のある人への実際の支援と
チームワークの重要性」(仮)

講師 堀内 桂

社会福祉法人 北摂杉の子会
コンサルテーション室 室長



シンポジウム 14:40～16:00



新谷 義和

おかやま発達障害者
支援センター 所長



勢村 真理

児童発達支援
放課後等デイサービス
ワルツ所長



赤松 基史

社会福祉法人四ツ葉会
生活介護、グループホームティール施設長

生きづらさを抱えている人の
「わからない」を「わかった」に
「わかってもらえない」を「わかってもらえた」に

日時

令和5年

7月23日(日)

10:00～16:10

(受付 9:20～)

場所

きらめきプラザ 301会議室

岡山市北区南方2-13-1 (公共の交通機関をご利用ください)

強度行動障害とは

人に対して叩く、噛みつく、頭突きする。自分の顔を腫れあがるまで何度もたたき続ける、壁や窓ガラスに思い切り自分の頭を打ち付ける、1日のうち何度も大声を張り上げる。

通常の支援ではなかなか対応が難しい行動が表れている状態を「行動障害」または「強度行動障害」と呼びます。

行動障害を表している人は、人を困らせたいがために行っているのではなく、自分の中の不安や混乱が極限に達した時に、行動障害で表現するしかない状況に陥っているのです。

今回のシンポジウムでは、この「生き辛さの極限」で表れる強度行動障害にスポットを当て、その背景にある要因、また効果的な支援の考え方など、一般の方でも分かりやすいように専門用語を使わず伝えていき、みんなで考え、多様性を認め合える社会を築く第一歩にしていきたいと思います。一人でも多くの方に知っていてもらいたい内容です。お時間のある方はぜひ会場へ足を運んでください。入場は無料です。

申込方法（入場無料）

※どなたでも申し込むことができます

（申込み多数の場合はお断りのご連絡をすることがあります）

定員100名

申込〆切 令和5年7月14日（金）

パソコン、スマートフォンまたはFAXでお申し込みください

パソコンURL <https://x.gd/4NUT1>



QRコード

FAX 086-275-4663

所 属 (個人の場合は個人と記入してください)	(フリガナ) 氏 名	連 絡 先	
		①メールアドレス	②電話番号
		①	
		②	
		①	
		②	
		①	
		②	
質問事項			

記入いただいたメールアドレス、電話番号等の個人情報は、本シンポジウムに関する連絡のみに使用します

お問い合わせ(受託者) 株式会社トモニー tel 086-275-4625 担当 川西

令和 5 年度 強度行動障害支援フォローアップ研修
開催要項

1. 目的 強度行動障害支援者養成研修を修了した受講者が、現場で実際に支援している利用者をモデルに研修で学んだ考え方やツールを活用し PDCA を回しながら支援を展開し、支援の状況を研修会の中で協議することで、強度行動障害のある人への適切な支援を学ぶ
2. 主催 岡山県子ども・福祉部障害福祉課、おかやま発達障害者支援センター
3. 日時 第 1 回 令和 5 年 10 月 24 日（火）13:30～16:30（13:00 より受付）
第 2 回 令和 5 年 11 月 29 日（水）13:30～16:30（13:00 より受付）
第 3 回 令和 6 年 1 月 29 日（月）13:30～16:30（13:00 より受付）
第 4 回 令和 6 年 3 月 6 日（水）13:30～16:30（13:00 より受付）
*原則 4 回を通してご参加ください
(実際に参加者の支援現場で支援を展開しながら、その結果を持ち寄り研修内で協議を行います。)
*モデル事例つきましましては、家族の同意等ご配慮をお願いします
4. 会場 おかやま西川原プラザ（〒703-8258 岡山市中区西川原 255）
5. 対象 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）修了者
6. 内容 別紙の通り
7. 定員 6 事業所 12 名（1 事業所 2 名ずつ）
*現場担当者及びサビ管・児発管等の現場責任者のペアでご参加ください
*定員を超えた場合は、条件を勘案し、可否を決定させていただきます。
(参加の可否については、締切り後直接ご連絡いたします。)
*各回 4 名程度のオブザーブ参加を予定しています
8. ファシリテーター 岡山県知的障害者福祉協会 発達障害対応委員会
おかやま発達障害者支援センター
9. 参加費 無料
10. 申込方法 グーグルフォーム
<https://forms.gle/yvMZPivHk8F6fXtV9>
グーグルフォームの利用が難しい場合、下記の項目を明記の上、メールにてお申込みください。
①所属 ②氏名 ③職名 ④従事年数 ⑤強度行動障害支援者養成研修受講年度
⑥研修資料を送付するメールアドレス ⑦連絡先 ⑧備考（主催者側に伝えたいことがあればご記入ください） ※②～⑤につきましましてはお 1 人ずつ記入ください
11. 締め切り 10 月 10 日（火）

〈問い合わせ〉

おかやま発達障害者支援センター 担当：秋山・池内・新谷
TEL：086-275-9277 Mail：asdshien@po.harenet.ne.jp

別紙

内容

※第 1 回目当日に以下の資料を作成・ご持参ください

- ・対象利用者の概要
- ・冰山モデル

	講義	演習	次回までの課題
第 1 回 10 月 24 日	・冰山モデル修正のポイント ・行動の意味と手立てを考える ～スキャッタープロット・ABC 記録～	・モデル事例の共有 ・冰山モデルの修正	・冰山モデルを（修正版）完成させる ・ABC 記録の記入
第 2 回 11 月 29 日	ストラテジーシート作成のポイント	ストラテジーシートの作成	ストラテジーシートを完成させ、支援を実際に試してみる
第 3 回 1 月 29 日	支援手順書の作成のポイント	・ストラテジーシートに基づいた実践報告・意見交換 ・ストラテジーシートの修正 ・支援手順書の作成	支援手順書を完成させ、支援を実際に試してみる
第 4 回 3 月 6 日 or7 日	全体発表の進め方	これまでの取組発表	

* 次回までの課題は毎回当日の 1 週間前までにメールにてご提出ください

* ご希望の事業所には必要に応じて研修期間内にファシリテーター等で訪問（コンサルテーション）させていただくことも可能です。

令和5年度 強度行動障害支援 管理者向け研修 ～中核的人材を育てるために～

令和5年3月に「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会」がまとめた報告書では、人材育成が重要な柱とされています。“各事業所において、管理職が人材育成を社会的な役割としてとらえ、マネジメントができる中核的人材を育て、適切なアセスメントや手順書の作成を継続的に進めるよう、外部の専門家（広域的支援人材）や地域の医療・福祉・行政等の関係者と連携する役割を持たせる仕組みを目指す”ことが求められています。（日詰正文「強度行動障害者支援のこれからを考える」『そだちの科学』No.41 より引用）

この研修を通して、国の強度行動障害支援のリーダーのひとりである日詰氏とともに、各領域における人材育成を見据えた支援体制の整備について、考えてみませんか？

日時：令和6年2月14日（水） 13:30～16:30

会場：岡山国際交流センター2階 国際会議場
（〒700-0026 岡山市北区奉還町2-2-1）

対象：福祉・教育・医療領域における管理者、役職者
（各施設・事業所、精神科病院、特別支援学校等）

定員
120名

参加費
無料

基調講演

「中核的人材養成のモデル研修について」

国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 研究部

部長 日詰 正文 氏

シンポジウム

●岡山県内の強度行動障害支援に関する取り組み概要

おかやま発達障害者支援センター

●岡山県内の強度行動障害支援における特別支援教育の状況

岡山県教育庁特別支援教育課 指導主事（主幹） 井上 寛規 氏

●岡山県内の強度行動障害支援に関する医療体制

医療法人なのはなクリニック 院長 笹野 京子 氏

●事業所内での強度行動障害支援

社会福祉法人四ツ葉会 これから 管理者 赤松 基史 氏

主催：岡山県（受託者）社会福祉法人旭川荘 おかやま発達障害者支援センター

お申込みはGoogleフォームをご利用ください

◆ 申込方法：下記のリンクよりGoogleフォームを利用してお申し込みください。

<https://forms.gle/GiS11N85KGR1wxdb9>

申込フォーム



◆ 申込締切：**令和 6年 2月 2日 (金)**

★ Googleフォームの使用が難しい場合はお問合せ先のアドレスに以下の情報をお送りください。

- ①参加者氏名 ②所属 ③職名・職種 ④電話番号
⑤備考（主催者側に伝えたいことがあればご記入ください）

◆ 会場へのアクセス

・JR岡山駅より徒歩3分。

詳しくは、下記の会場ホームページをご覧ください。

<https://www.opief.or.jp/oicenter/access.html>

会場アクセス



- ・**会場に駐車場はございませんので**、最寄りのパーキングをご利用ください。
・提携駐車場の岡山西口パーキングについては、割引料金でご利用いただけます。
（会場1階受付にて割引駐車券をご購入下さい。）

⚠️ 当日10時の段階で、岡山市内に大雪警報が発令されている場合、開催を中止とさせていただきます。ご了承ください。



【お問合せ先】

おかやま発達障害者支援センター 担当：荻山・山本・新谷

☎ 086-275-9277

Mail: asdshien@po.harenet.ne.jp

おぎやま

令和5年度 強度行動障害支援コンサルテーション事業 関係者名簿

機関名	役職名	出席者	備考
川崎医療福祉大学医療福祉学部 医療福祉学科	講師	小田桐 早苗	スーパーバイザー
株式会社トモニー・きずな	管理者	川西 大吾	スーパーバイザー
社会福祉法人四つ葉会障害福祉サービスこれから	管理者	赤松 基史	スーパーバイザー
社会福祉法人P.P.P P.P.P. BBフリーダム！	管理者	福島 泰儀	補助役
社会福祉法人弘徳学園 おかやま共育・共働センターでんでん	管理者	横山 竜也	補助役
社会福祉法人ももその学園 ももその育成園	サービス管理責任者	前田 祐一	補助役
社会福祉法人閑谷福祉会 Colorful space しずたに	サービス管理責任者	上里 征人	補助役
社会福祉法人旭川荘 いんべ通園センター	支援課長	吉本 信介	補助役
岡山県子ども・福祉部障害福祉課 障害福祉サービス班	副参事	逢澤 芳恵	
おかやま発達障害者支援センター	所長	新谷 義和	スーパーバイザー
	発達支援課長	池内 豊	スーパーバイザー
	発達支援主任	山本 恵理	コーディネーター
	相談員	秋山 裕則	コーディネーター

令和5年度 強度行動障害支援コンサルテーション事業(令和6年3月18日現在)

1. 相談実績

	R5 年度(件)
A ケース概要の聞き取り、情報提供、つなぎ支援(介入なし)	5
B 県センター運営事業での介入	2
C 本事業でのコンサルテーションの実施(予定含む)	8
計	15

2. 相談内訳

〈相談者の所属機関〉(N=15)

	A	B	C	計
放課後等デイサービス事業所	0	0	1	1
就労継続支援 B 型事業所	1	0	1	2
生活介護事業所	0	0	1	1
入所施設	0	0	1	1
相談支援事業所	2	2	1	5
特別支援学校	0	0	2	2
精神科病院	0	0	1	1
市町村 保健課	2	0	0	2

〈コンサルテーションの対象機関〉(N=15)*事例の所属機関

	A	B	C	計
放課後等デイサービス事業所	0	0	1	1
就労継続支援 B 型事業所	1*	0	1	2
生活介護事業所	1*	1	2	4
入所施設	0	0	1	1
特別支援学校	0	1	2	3
特別支援学級	1*	0	0	1
精神科病院	0	0	1	1
なし(在宅)	2*	0	0	2

〈事例の年代〉(N=15)

	A	B	C	計
13~15 歳	1	1	2	4
16~18 歳	1	0	1	2
19~39 歳	2	1	4	7
40 歳以上	1	0	1	2

〈事例の居住地〉(N=15)

	A	B	C	計
岡山市	1	0	2	3
備前地域(岡山市除く)	0	0	0	0
備中地域	2	0	4	6
美作地域	2	2	2	6

〈相談者からみた課題となる行動〉(複数選択あり)

	A	B	C	計
ひどい自傷	1	0	2	3
強い他傷	2	1	3	6
激しいこだわり	1	1	5	7
激しい器物破損	0	0	1	1
睡眠障害	0	0	0	0
食事に関する強い障害	1	0	0	1
排泄に関する障害	0	0	3	3
その他	0	1	0	1

令和 5 年度 相談状況報告(令和 6 年 3 月 18 日時点)

<A ケース概要の聞き取り、情報提供、つなぎ支援> 5 件

	年月日	相談者の属性	相談の内容	対応状況
1	7/6	保健師(市町村)	中学校の特別支援学級に所属する生徒の他害行為について	7/21、所内カンファレンスにて方針を検討。相談者へ、特別支援教育エキスパート派遣事業を紹介した。
2	9/22	相談支援専門員	生活介護事業所の利用を中断している在宅の方の、他害行為について	9/29、所内カンファレンスにて方針を検討。個別支援の調整として岡山市へつなぎ支援を依頼した。
3	10/10	事業所職員	就労継続支援事業所を利用している方の、家庭での異食行為について(家族から相談されたときの対応)	相談者の都合で、電話での聞き取りを中断。翌日に改めて連絡がある予定だったが、連絡なし。 10/13 所内カンファレンスにて相談内容を共有した。今後、相談者から再度連絡が入れば、改めて聞き取りを行う。
4	11/21	相談支援専門員	在宅生活中で、自宅から出るのが難しい方の支援について	11/24 所内カンファレンスにて方針を検討。相談者へは、生活の様子や親の意向などの情報収集をしておくことを提案。県センターとしては、ケース会議を開催する場合は必要に応じて参加できることを伝えた。
5	12/26	保健師(市町村)	在宅生活中の方の、自傷行為などの行動問題について (※相談できるかどうか問い合わせ)	相談することについて支援機関同士で共有し、了解が得られたら改めて連絡が入る予定。

<B 県センター運営事業での介入> 2 件

	年月日	相談者の属性	相談の内容	対応状況
1	5/31	相談支援専門員	特別支援学校中学部の生徒の、寄宿舍での他害行為について	6/9、所内カンファレンスにて検討し、介入する方向で決定した。 県センターの運営事業として、7/13・8/22・11/30 に介入した。
2	9/21	相談支援専門員	生活介護事業所を利用している方の、異性に対する不適切な行動問題について	9/22、所内カンファレンスにて方針を検討。県センターが生活介護事業所に介入する方向で決定した。 県センターの運営事業として、11/5 に介入した。

<C 本事業でのコンサルテーション実施(予定含む)> 8 件

	年月日	相談者の属性	相談の内容	対応状況
1	6/5	事業所管理者	生活介護を利用している方の排泄に関する行動問題について	4/27、相談者から連絡があり、「対象者の状況について直接伺って伝えたい」と依頼があった。 4/28、所内カンファレンスにて検討し、介入する方向で決定した。 6/5、相談者と対面し聞き取りを行った。 12/4 本事業でのコンサルテーションを実施。2回目を 3/18 実施。
2	10/12	支援学校教員(コーディネーター)	特別支援学校中学部の生徒の、他者の持ち物への執着について	10/20 所内カンファレンスにて方針を検討。①県教委へ、支援学校から相談が入ったことを報告。 ②本事業でのコンサルテーション実施に向けて、体制確認。 1/16 本事業でのコンサルテーションを実施。2回目を 3/18 実施。
3	11/20	相談支援専門員	生活介護事業所を利用中の方の、自傷行為、排泄面の行動問題、強いこだわりについて	11/24 所内カンファレンスにて方針を検討。①相談者へ、ターゲット行動について記録をとったうえでのケース会議実施を提案。②ケース会議に参加し、希望に応じて事業所でのコンサルテーションを実施。 12/18 ケース会議参加。 2/1 本事業でのコンサルテーションを実施。次回は 3/28 予定。

4	11/28	支援学校教員(コーディネーター)	特別支援学校高等部生徒の、粗暴行為への対応について	2022年12月に依頼があり、県センターの運営事業で介入した。 今回再度連絡があり、了解を得て、1/17に本事業でのコンサルテーションを実施。2回目を3/12実施。
5	12/6	事業所 副管理者	放課後等デイサービスを利用中の方(特別支援学校中学部生徒)の、事業所から帰る際のこだわり行動や自傷行為について	12/7 所内カンファレンスにて方針を検討。 2/5 本事業でのコンサルテーションを実施。次回は4月中旬予定。
6	1/17	事業所 サービス管理責任者	入所している方の、職員や利用者への他害行為について	1/19 所内カンファレンスにて方針を検討。 3/11 本事業でのコンサルテーションを実施。
7	1/30	事業所 管理者	事業所を利用中の方の、排泄に関する問題行動や、本人への支援内容について	昨年12/26に問い合わせがあったケースで、改めて相談が入った。 2/2 所内カンファレンスにて方針を検討。 3/1 本事業所でのコンサルテーションを実施。次回は3/19予定。
8	3/1	病院 ソーシャルワーカー	長期入院中の患者への支援内容について	2020年5月に県センターに初めて相談が入り、方針を検討後、電話で対応。 昨年2月に再度相談が入り、同年3月に病院内でのケース会に参加。個別活動の枠組みについて提案した。 今回の相談について、3/8 所内カンファレンスにて方針を検討。本事業でのコンサルテーションを実施予定。

コンサルテーション状況報告(令和 6 年 3 月 18 日時点)

年月日	派遣先	派遣回数	スーパーバイザー等 職・氏名	コンサルテーションの内容
12/4	生活介護事業所 A (対象者 R5①)	1	SV:新谷義和(おかやま発達障害者支援センター) 補:横山竜也(でんでん) コ:川崎美穂(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察 ケースカンファレンス
12/18	生活介護事業所 B (対象者 R5②)	1	コ:秋山裕則(おかやま発達障害者支援センター)	ケース会議 (本事業でのコンサルテーションを行うことについて了承を得た。)
12/21	支援学校 A (対象者 R5③)	1	SV:新谷義和(おかやま発達障害者支援センター) コ:秋山裕則(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察
1/16	支援学校 A (対象者 R5③)	1	SV:新谷義和(おかやま発達障害者支援センター) 補:前田祐一(ももぞの育成園) コ:秋山裕則(おかやま発達障害者支援センター)	ケースカンファレンス
1/17	支援学校 B (対象者 R5④)	1	SV:新谷義和(おかやま発達障害者支援センター) 補:福嶋泰儀(P.P.P.BB フリーダム!) コ:山本恵理(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察 ケースカンファレンス
2/1	生活介護事業所 B (対象者 R5②)	2	SV:川西大吾(株式会社トモニー) 補:上里征人(Colorful space しずたに) コ:秋山裕則(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察 ケースカンファレンス
2/5	放課後等デイサービス A (対象者 R5⑤)	1	SV:小田桐早苗(川崎医療福祉大学) 補:吉本信介(いんべ通園センター) コ:山本恵理(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察
3/1	就労継続支援事業所 A (対象者 R5⑦)	1	SV:川西大吾(株式会社トモニー) 補:前田祐一(ももぞの育成園) コ:秋山裕則(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察
3/11	入所施設 A (対象者 R5⑥)	1	SV:川西大吾(株式会社トモニー) 補:横山竜也(でんでん) コ:山本恵理(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察 カンファレンス
3/12	特別支援学校 B (対象者 R5④)	2	SV:新谷義和(おかやま発達障害者支援センター) 補:福嶋泰儀(P.P.P.BB フリーダム!) コ:山本恵理(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察 カンファレンス
3/18	特別支援学校 A (対象者 R5③)	2	SV:新谷義和(おかやま発達障害者支援センター) 補:前田祐一(ももぞの育成園) コ:秋山裕則(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察 カンファレンス
3/18	生活介護事業所 A (対象者 R5①)	2	SV:新谷義和(おかやま発達障害者支援センター) 補:横山竜也(でんでん) コ:山本恵理(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察 カンファレンス
3/19 (予定)	就労継続支援事業所 A (対象者 R5⑦)	2	SV:川西大吾(株式会社トモニー) 補:前田祐一(ももぞの育成園) コ:秋山裕則(おかやま発達障害者支援センター)	カンファレンス
3/28 (予定)	生活介護事業所 B (対象者 R5②)	3	SV:川西大吾(株式会社トモニー) 補:上里征人(Colorful space しずたに) コ:秋山裕則(おかやま発達障害者支援センター)	行動観察 カンファレンス

SV:スーパーバイザー 補:補助役 コ:コーディネーター